作成番号:0411

==========

一般社団法人 日本侵襲医療安全推進啓発協議会 「会員向けメールマガジン」

==========

号数:2026-411

****

内容:歯科受診が糖尿病リスクのある人を見いだす有用な機会となり得る

Association between HbA1c chairside values and periodontitis.

Journal of dentistry. 2026 Apr;167;106563. doi: 10.1016/j.jdent.2026.106563.

https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/41690446/

****

歯科受診が糖尿病リスクのある人を見いだす有用な機会となり得る。歯科の患者に、指先穿刺による簡便な血液検査を行ったところ、3 人に 1 人以上の割合で糖尿病または糖尿病前症が見つかったという。英キングス・カレッジ・ロンドン(KCL)の研究者らの研究によるもので、詳細は「Journal of Dentistry」4 月号に掲載された。

英国成人の歯科受診頻度はかかりつけ医の受診頻度よりも高い傾向があり、かつ、医科受診時の HbA1c 測定が日常的に行われているわけではなく、歯科受診者に対して診察室内での HbA1c 測定が、糖尿病のスクリーニングとして機能するか、横断的に検討された。解析対象は KCL による口腔・歯科関連のバイオバンクに参加している 911 人で、このうち 104 人は、既に 2 型糖尿病の診断を受けている患者だった。歯肉の状態は、6.0%が健康、11.3%は歯肉炎、82.7%は歯周病だった。HbA1c は診察室内で指先穿刺により採血して測定し、所要時間は 6 分ほどだった。HbA1c の平均は 5.71±0.94%であり、糖尿病患者を除くと、227 人(28.7%)が HbA1c 5.7～6.3%で「糖尿病前症」に該当し、58 人(7.3%)は HbA1c がより高く「糖尿病」に該当した。つまり、歯科でのスクリーニングにより、3 人に 1 人以上に未診断の糖尿病前症または糖尿病が発見される可能性が示された。また、歯肉の状態が悪いほど HbA1c が高いという関連も見つかった。具体的には、歯肉が健康な人の HbA1c は 5.43±0.51%、歯肉炎の人は 5.51±0.91%、歯周病の人は 5.76±0.97%だった(傾向性 P=0.004)。

歯周病による炎症は糖代謝に変化をもたらし、糖代謝の乱れは炎症に影響を与える。歯周病は糖尿病の発症や悪化に関連する可能性があり、その逆もまた同様である。

